

平成29年度第3回沼田市市民構想会議（会議概要）

- 1 日 時 平成29年8月29日（火）午後2時から午後4時
2 場 所 沼田市中心公民館 第一講義室
3 出席者 委員14名（欠席11名）
アドバイザー 篠田 暢之氏
沼田市 副市長、総務部長、財政課長
（事務局：企画課長、企画係長）

7 会議内容

（1）開 会（事務局）

（2）会長あいさつ

<会 長>

今回は財政課長から沼田市公共施設等総合管理計画についてご説明いただき、特に公共施設を中心としたご意見をいただいた。本日は社会教育施設以降についてご意見をいただきながら議論を進めてまいりたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

（3）前回の会議結果について

<会 長>

それでは事務局から前回の会議結果について説明願ひたい。

<事 務 局>

**** 第2回沼田市市民構想会議概要により説明 ****

<会 長>

事務局からの説明があつたが、質問等があればお願ひしたい。
特になければ次に進ませていただく。

（4）議題

1) 沼田市公共施設等総合管理計画の実施に向け、今後の進め方について

<会 長>

「沼田市公共施設等総合管理計画の実施に向け、今後の進め方について」に進めさせていただきます。前回に引き続いて施設類型ごとの基本方針を踏まえて留意すべきこと等についてご意見をいただきたい。それでは社会教育系施設の“図書館”、“博物館等”からお願ひしたい。

<委 員>

歴史的建造物についてはそのまま残し、未来の財産として活用してはどうか。

<委 員>

旧生方家住宅、旧土岐邸洋館などの歴史的建造物に関しては、既に移築で方針が決まっているのではないか。

<総務部長>

沼田公園内にある旧土岐邸洋館と旧日本基督教団沼田教会記念会堂については、生方記念文庫、旧沼田貯蓄銀行を整備した上之町地内に移設し、歴史的建造物を集約した上で一体的管理を行いながら保存・活用することとしています。

また、旧生方家住宅については国指定重要文化財であることから、移設について国と協議させていただいて進めて行く予定でございます。

<会 長>

他にご意見がなければ、スポーツ・レクリエーション系施設へ進めさせていただく。まず、“スポーツ施設”についてご意見をお願いしたい。

<委 員>

“利根屋内プール”については、稼働日数・利用者が少ないように感じている。地元の賛同が得られるのであれば、稼働日数や利用者が少ない施設は廃止する方向で考えても仕方がないのではないか。

<総務部長>

現状では、市のスポーツ施設は黒字になることを想定してその施設を維持しているわけではありませんが、今後の検討の中では利用実態を把握し、統廃合を含めて地元の皆さんと協議してまいりたいと考えています。

特に利根屋内プールは元々が温水プールであったものを、施設の稼働経費や修繕費が多いためであることから現在のような使用をしている経過があり、それによって利用者が少なくなっていることも考えられます。

<委 員>

市の施設経営が必ずしも黒字であるべきとは考えていないが、こうした中で取捨選択していかなければならないとなったときに、ひとつの判断基準として稼働率や利用率が判断材料になるのはやむを得ないと考える。

<委 員>

築年数で見ると白沢プールの方が利根屋内プールよりも古いので、どちらを壊すのかということになれば、白沢プールを壊すということになるのではないか。

<総務部長>

市営プール、民間のプールがあるので、利用者の数も含めて総体的なところで検討したいと考えています。

<委 員>

利用人数もあるが、その地域の人口に配慮した上での利用率についても考えなければならぬのではないか。

<委 員>

当然そういったことにも配慮しなければならないが、白沢プールについては老朽化

して使い勝手が悪いという話もある。

<総務部長>

プールの利用状況を調査させていただいて、これを廃止した場合に（代わりに）どこを利用することができるのかについても検討していきたいと考えています。

<委員>

単純に古いから廃止ということではなくて、白沢で町民が利用できるプールは1か所だけであり、老朽化していてもやはり必要性はあると考えられる。

<総務部長>

色々なご意見を伺いながら進めたいと考えているが、前回から説明しているとおりにこれから施設を4分の1程度に減らさないと維持できないだろうということを考えるとプールが沼田・白沢・利根にそれぞれ必要なのかということも議論しなければいけないと考えています。それではプールは何処に、グラウンドゴルフ場は何処になど、各地区にそれぞれ同じ施設があるのではなくて、分担して施設を配置していくことも検討していく必要があると思いますので、そうした考え方を含めて色々のご意見をいただいて、全部の地域に皆が利用しやすいようにできたら良いのですが、やはりどの程度のものを作ったら良いのか、施設の大きさや維持管理費がどれくらい必要なのかということも考えながら検討していければと考えています。特に無くなるものに対しては、皆様のご理解をいただかないと納得できない地域の方々も出てくると思いますので、その辺りについては十分に意見交換しながら、また、ご意見を踏まえながら議論を進めたいと考えています。

<委員>

旧沼田市内にも市営温水プールが欲しいという意見があったが結果的には実現しなかった。利根町の温水プールは現在使われていないかもしれないが、やはり（健康増進の観点としては）通年で使える温水プールが市内に1か所くらいは欲しいので、使用できるように整備をお願いしたい。また、現在は学校からもプールがなくなっているということだが、緊急時に命を守るよう、水泳指導は計画的に行うべきである。

<総務部長>

温水プールとして通年で利用できるようにすることもひとつの考え方だと思いますが、温水施設の設置、ランニングコスト、故障した時の修繕費用が大きくて、コストと利用率を考えたときに、本当に必要なのかという議論になってしまうと思いますので、仮に今後検討を進めるとするならば清掃工場の近くで温水プールを運営しているところがありますのでそのような形ではどうかなども考えながら進めていければと考えています。

<委員>

地元の方からご意見をいただくことは正論だと思うが、例えば白沢町では各地区にトレーニングセンターが設置されていて、町外の住民から見ると面積的にも町に1～2カ所設置されていれば良いように感じられる。

また、これから施設を統廃合していくことはやむを得ないことであると思うが、市内には公式戦が可能な武道場がないことから、武道場の建設が積年の懸案事項になっているので、既存施設の統廃合とあわせてそうした新規課題についても検討していただきたい。

<委員>

先ほど総務部長から施設を4分の1にという説明があったが、個々の分類で4分の1なのか全体で4分の1なのか。

<総務部長>

この計画では、今後、全体で4分の1程度に減らさないと維持が大変だろうという内容になっています

<財政課長>

正身を4分の1にしなくては厳しいだろうという考えはありますが、計画では40%削減することを目標としています。

<委員>

この計画はいつまでに実現させるのか。

<総務部長>

この計画は40年計画になっています。

先ほどお話しがありましたとおり、白沢・利根など各地区に施設がありますので、それについては、担当する課が地域に伺ってお話しをさせていただく予定でいます。例えば集会所などは1地区に複数設置されているところもあるので、使いやすいところ1か所に統合するなどの話し合いを地元の方々とお話しさせていただきたいと考えています。

また、武道場の関係については、沼田公園を歴史公園として整備しようということで、公園内の施設は外に移転させる方向で取り組みを進めているところなので、記念講堂についても、武道場として場所を含めて検討しているところでございます。

<委員>

白沢町の武道館は全国大会を実施したこともある施設であるが、公共施設を4分の1に減らそうという流れの中で、公園内の柔剣道場を壊して新たに武道場を建設するというのは考え方として矛盾しているのではないか。

また、白沢町内のトレーニングセンターは主にお年寄りが利用していて健康増進の観点からも単純に廃止ということにはならないと思うので、地元へ譲渡して市の負担

を軽減するなど、住民と意見交換する中で様々な考えが出されると思うので、そこでの意見を踏まえて方針を決定すべきである。

<委員>

住民の意見を踏まえて取り組みを進めることは重要であるが、意見を聞けば、おそらくほとんどの方は反対すると思うので、ある程度は市からどうしたいのか提案していかなければ進展しないと思う。

<総務部長>

優先順位を付けながら踏み込んでいけるものから踏み込んでいこうということで進めていきたいと考えています。

やはり一番大きな問題としては地区にある施設をどうするのかということで、総論は賛成でも、各論になると色々なご意見が出てくることになると思いますので、その辺りを調整しながら、先ほども市から地元へ譲渡というご意見がありましたが、それもひとつの方法ではないかと思しますので、そういった考え方も含めて地元と協議させていただきたいと思います。

<委員>

早くやってもらいたい。

<総務部長>

遅れただけ財政的にも厳しくなってきますので、出来るだけ早い時期に進めていきたいと考えています。

<委員>

地区によって集会場が沢山ある、トレーニングセンターが沢山あるということだがこれらは共存できないのか。

<委員>

白沢町のトレーニングセンターは集会所と同じ敷地内であって、集会所よりも利用率が高い地域がある。

<委員>

それらをひとつの建物に併設することで数的には減らすことができるのではないか。

<委員>

そもそも公共施設を削減しなければならない理由とは何か。

<総務部長>

人口が減ることで交付税も減ってくるので財政的に苦しくなることが見込まれること。また、既存施設の多くはこれから老朽化してくるということで、それを全て建て替えることは費用として持ちこたえられないということから、老朽化した建物を全て

建て替えるのではなくて、それを集約する形にするのか、こういった利用が一番良いのかということで、一番大きな問題はこれからの財政状況ということになると思います。

<委員>

財政的な理由であるならば建築年の古い施設からチェックしていく方法もある。また、それと並行して人口が減らないような努力が必要であり、そのためには何をすれば良いのか議論していく必要がある。

<委員>

統廃合で廃止という考えもあるが、必要性のあるプールであれば民営化してプールを残すということも考えられるのではないかと思う。

<会長>

スポーツ施設について他にご意見があればお願いしたい。他にご意見がなければ、次のレクリエーション施設・観光施設進めさせていただくのでご意見があればお願いしたい。

<委員>

レクリエーション施設・観光施設については減らすよりも、残して集客のためにもっと活用すべきであると思う。

<委員>

沼田市では観光が重要な産業であるということを標榜しているが、その割には施設が少ないと感じているので、宣伝の面も含めてこちらは縮小ということではなくて、寧ろもっとお金を使って全国的な認知を高めた方が良いと思う。

つまり何が何でも縮小ということではなくて、こちらは力を入れるべき分野なのではないかと考える。

<総務部長>

観光地に設置されている施設については、使い方によっては収益を得ることも考えられますので、ご意見にありましたとおり活用の考え方も含めて考えていきたいと思えます。

<委員>

望郷の湯についてはトイレの利用率は高いが、建物の外に食堂がなく集客力が弱い。国道120号から施設までの農地で何かするなど、何かしないと（集中してお金をかけないと）お客が来ない。

<委員>

望郷の湯の食堂からは河岸段丘が良く見えるので、そうした景色・景観をもっと活

用することも考えられる。また、子どもの遊び場（遊具）もあるが入浴客には分かり難い場所にあるので、案内板を設置するなどの工夫で大きく改善されると思う。

そういった意味で良い素材はあるに十分に活用されていないので、それを活かせば沼田市の観光、更には産業の発展に結び付く大きなポイントなると思う。

<委員>

望郷の湯は国道に接道しているわけではないが、田園プラザは国道沿線でなくとも賑わっていることを考えると、接道の問題だけではなくて魅力的な部分の発信力やお客さんに来ていただくための営業努力に大きな違いがあるように思う。

<委員>

玉原高原センターハウスは指定管理施設になっているが、現在のところ公衆トイレとしての機能しかないのでこの先も運営されるか分らない。

私としては今後も活用していけたら良いと考えていて、玉原のブナ林は関東最大級という“売り”があってもったいないので、ブナ林を使って玉原の自然がいかによいものなのか、センターハウスを活用して資料展示をしてはどうか観光交流課に提案しているところなので、是非、施設を残していただきたいと考えている。

<総務部長>

観光施設の活用方法等についてのご提案は今後の検討の参考とさせていただきたいと考えているので、他にもご提案がありましたら本日でなくとも、是非お聞かせいただきたいと思います。

<委員>

六角堂は三十三観音の札所のひとつなので、それが分かる名称の方が良いと思う。

<会長>

観光施設については集客性を高めるためにも必要ではないかというご意見があったが、他になければ次に進めさせていただく。

それでは、④学校教育系施設に進めさせていただくので、まずは学校についてご意見をお願いしたい。

<委員>

市で幼稚園を含めて学校の統合計画の案を持っていると思うが。

<総務部長>

幼稚園、保育園の統廃合については既に計画を策定していて、説明会も実施しましたが、小中学校については、現在、教育委員会内部で検討しているところでございます。

<委員>

児童・生徒数が減少していて、学校だけこのままで良いということにはならない。

<総務部長>

利根町では統合され利根小学校が設置されたところです。

また、本庁管内においても子どもの人数が減っていますが、通学区が変わる関係があって、そういった計画を、教育委員会で検討しているところでございます。

<委員>

池田小学校、川田小学校などもかなり厳しい状況だと思う。

<委員>

統廃合の検討とあわせてスクールバスについても検討されているのか。

<総務部長>

利根町の小学校が統合されて1校になりますが、スクールバスを増やして通学を支援するという対応をさせていただきます。本庁管内におきましても距離などがどれくらいになるのか等を見ながらスクールバスが必要であれば対応していくということになると思います。

<委員>

給食センターについての計画はどうなっているのか。

<総務部長>

給食センターを利根西小学校跡地に建設するというので計画していて、子どもの人数を考えて規模も考えているところでございます。

沼田給食センターが南中の近くにあって、白沢調理場と利根調理場は学校で給食を作っている関係上、特に利根と白沢の調理場はかなり老朽化しているということもございまして、今回利根西小の跡地で統合した調理場をつくるということで今年から設計に入る予定になっています。

<委員>

調べてみると沼田給食センターでは4, 220食、白沢調理場は380食、利根調理場は450食を作っていて、大部分を沼田給食センターで賄っている状況なので、新たに建設するのではなく沼田給食センターに機能を集約していく考えはないのか。

<総務部長>

沼田給食センターではご飯を炊いていなくて、高崎から炊いたものを運んでくる状況ですので、やはり地元の米を食べさせてあげたいということで、その施設を設置する場所がないため、白沢・利根を統合して1か所、地元のご飯を炊けて、給食をトータルで出せるような形の調理場を建設しようとしているところです。

<委員>

米飯はそこから提供されるということか。

<総務部長>

全部の調理場を統合して1施設にして、地元の米を炊けるようにするという事です。

<委員>

これはいつまでにやるのか。

<委員>

2年後と聞いている。

<委員>

公共施設における学校の構成比は37%と高く、人口が減少していく中では教育委員会の兼ね合いもあるが、ここは踏み込んでいく必要があると思う。

<会長>

学校教育系施設についてご意見をいただいたが、学校については教育委員会でも統廃合等の計画もあるということなので、それらの計画と整合性を保ちながら進めていただくということをお願いしたい。また、その他教育施設のところで、沼田給食センター、白沢調理場、利根調理場についてご議論いただいたが、これらの施設は統合して1施設になるということなので次に進ませていただく。

次の子育て支援施設についてご意見をお聞かせいただきたい。

<委員>

これらの施設については、既に市から方針が示されているので、その方針に沿って進めることで良いと思う。

<会長>

それでは、保育園については、市が示している方針に沿って進めることでお願いしたい。次に進めさせていただいて、児童施設についてご意見をいただきたい。

<委員>

学童クラブは市の直営なのか。

<会長>

大部分は社会福祉協議会で運営しているもので、これについても学校の統廃合等により、自ずと方向性が出てくるものだと思うので、次の保健・福祉施設に進めさせていただく。

<委員>

避難所にも指定されていて、必要性も高い施設であることから現状のまま維持していくことで良いと思う。

<委員>

減らすのではなく、逆に増やさなければならなくなることも考えられる。

<会長>

それでは、必要な施設であるので経費の節減に努めながら維持していくということをお願いしたい。

次の行政系施設に進めさせていただく。

<委 員>

沼田市役所の移転とあわせて都市整備事務所も移転するのか。

<総務部長>

本庁と都市整備事務所はテラス沼田に移転することになっています。

市の耐震調査では現在の本庁舎と利根支所は耐震性がないという結果であり、本庁舎はテラス沼田に移転することが決定していますが、利根支所については、今後、これをどうするのかについて検討しなければならないと考えています。

また、白沢支所については公共施設として耐震性能があるとの結果でありましたので、今後は活用について検討していこうと考えています

<会 長>

活用方法も含めて何か良いアイデアがあればご意見をお願いしたい。

他にご意見がなければ次の消防施設に進めさせていただく。大部分は各町にある消防機械器具置き場ということであるが、ご意見をお願いしたい。

<総務部長>

消防施設とはいっても実際には消防団の詰所や機械器具置き場ではありますが、これについては順次整備を進めてきています。今後、消防団を含めて組織の見直しをしなければと考えていますので、これについては消防の方で協議しながら進めて行きたいと考えています。特に消防団は今年女性消防団員を募集して、女性の方にも消防団に加わっていただいて、防火・防犯意識を高めていただくための活動をしていただきたいと思います。

<委 員>

消防団員不足が深刻になっていて、火災や災害が発生した時にも自営業の団員しか集まらない。

<委 員>

有事に中々集まらないとはいっても火災の残火処理や地域の若者のつながりの核になっているもので消防団が果たす役割は大きいと思うが、それにしても施設数が多過ぎるように感じるので、ある程度はまとめて行く必要があるのではないかと。

<総務部長>

消防団の大きな役割として、単独の火災であれば常備消防でも消火できますが、地震などで火災が同時に多発したときには消防団がいないと対応できないということがあります。

<委 員>

消防団は地元の火災であれば常備消防よりも早く現場に到着しており、水利にも明るいので迅速に対応できるほか、中継送水なども消防団が担っている。

また、常備消防は鎮火したところで撤収してしまうが、消防団は現場に残って徹夜で残火処理にあたっている。

<委 員>

災害時には特に必要性があって、自然災害が多い市町村では消防団が中心になって捜索等にあたっている。施設数が多いとしてもやはり消防団は地域ごとにないと大変なことになってしまうと思う。

<委 員>

私としては反対しているわけではなくて、この54もある施設を地域でまとめることはできないのかという意見である。

<委 員>

入団者が少ないので再編せざるを得ない状況になっていて、再編成について、現在、消防団で検討しているところである。

<会 長>

消防団の中で再編について議論されているということでございますので、それに合わせた形で、今後、進めていただくこととさせていただきたいと思います。

<委 員>

消防施設については既に取り壊されている施設が含まれている。

<総務部長>

これは調査時点のデータであり、最新のものは財政課でも把握しています。

<委 員>

昨年、利根町では大きな自然災害があって片付けてくれたのは消防団だった。地元の消防団であれば誰がいなくても直ぐに分るので、そうしたことも考慮して今後の方向性を考えて行くべきである。

<委 員>

ボランティアでは難しいのか。

<委 員>

ボランティアの場合は、いつ、何人来てくれるのか分からないので、やはり頼れるのは地元の消防団であった。

<会 長>

他にご意見がなければ、次のその他行政系施設に進めさせていただくのでご意見をお願いしたい。

<委 員>

グリーンベル21についてはテラス沼田として今後の方向性が決定しているの、その決定に沿っていくことで良いと思います。

<会 長>

利根町若者定住センターは利根支所の今後の方向性に準じて行くことになるので、次の公営住宅に進めさせていただく。

<総務部長>

市営住宅については既に計画を策定していますので、それに沿った形で進めたいと市では考えています。

<会 長>

それでは市に計画があるので、それに沿った形で進めていただくということをお願いしたい。次に進めさせていただいて公園についてご意見をお願いしたい。

<委 員>

多額の維持費が必要になるものではないので現状維持で良いのではないかな。

<総務部長>

公園については避難場所の機能を担っているほか、建物ほどには維持費はかからないと思いますので、今のところ市としては減らしていく方向では考えていません。

<委 員>

公園については避難所指定欄が×になっているが。

<事務局>

基本的には避難所は学校施設が各地区の避難所に指定されていますので、公園については指定されていない避難場所ということになります。

<委 員>

先ほど、公園は維持費が少なくて済むというご意見があったが、除草や樹木の剪定など寧ろ多額の維持費が必要になると思うがどうか。

<総務部長>

当然、公園も維持費はかかりますが、ここでご意見いただいている建物の建替えや修繕と比較した場合には維持費は少なくて済むということでございます。

<会 長>

それでは公園については、このまま残す方向性でということをお願いしたい。次に進めさせていただいて、供給処理施設についてご意見をお願いしたい。

<委 員>

水道会館とは何か。

<総務部長>

浄水場に隣接している会館で上下水道課の事務室があります。

<委 員>

検討というより必要性のある施設ではないか。

<委 員>

将来的にコンパクトシティを目指してインフラをどうするということになったときには踏み込んで検討しなければならない施設である。

<総務部長>

これについては総合的に考えなければならないと思っています。

例えば人口が減って利用者が少なくなってくると下水道料金は上がってきますので、統合できるのかできないのかを含めて考えて行かなければならないと思っています。特に水道施設は老朽化が進んでいるので総体的な視点で今後どうしていくのか考えて行く必要があると思います。

<委 員>

水道会館については、ライフラインの安全性確保のための施設でもあり必要な施設である。

<会 長>

他にご意見がなければ次のその他に進めさせていただく。

ご意見をお願いしたい。

<総務部長>

主には市が所有している倉庫等となりますので、これにつきましては必要性を見ながら今後の方向性を検討してまいりたいと考えています。

<委 員>

市民ふれあい農園などは市が運営すべき施設なのか疑問を感じる。

<総務部長>

市がやるべき施設なのかどうかも含めて検討したいと思います。

<委 員>

沼田には、柳波賞・ふるさと文学賞・全国吹割れ俳句大会の三大文学賞があつて、柳波賞については委員会があつて施設をつくらうという動きもあるが、ふるさと文学賞・全国吹割れ俳句大会についてはそういった動きがないので、施設があれば展示するとか、収集するとかそういったことに活用できるよう検討してはどうか。

<総務部長>

資料の保管場所としては、これから学校教室が空いてくるということもありますが、一般の方にご覧いただく場所は、テラス沼田に資料館を整備することになっています。

<委 員>

資料館よりも、白沢町におのちゅうこう先生の生家があるのでそこに原稿を展示するとか、集約とは逆になるが、縁（ゆかり）のある地区にそういったものを整備することを考えてはどうか。また、吹割れ俳句大会であれば、竜宮の湯が閉館して施設が空いているので、その施設に寄稿された俳句を展示するなどの活用をしてはどうか。

<総務部長>

歴史資料館の検討とあわせて検討させていただきたいと思います。

<会 長>

ここでアドバイザーであります篠田先生からご意見、ご感想等をお願いしたい。

<アドバイザー>

皆さんの貴重なご意見を外部の人間として拝聴させていただきました。

40%削減ということで、別の言い方をすると“集約化”ということだと思います。そして集約化がなぜ必要なのかということ、市町村合併しても、形の上の市町村合併で、地域の本当の意味での再編というのが若干ずれがあるということはこの機会に調整したいということであろうと思います。4分の1に圧縮というお話しが市からありましたが、この中で一番大事な視点というのが、“量”から“質”に転換するということができないといけない。量を単に減らすということであれば施設の4分の1を単純に圧縮するだけで済みますが、住民の皆さん、或いは沼田を愛する郷土愛からのご発言を拝聴していると、やはりそこには単に減らすという作業ではなくて、減らしながらその中で大事な部分は残そうという、私のことばで言うと“量”から“質”へということが問われているのだらうと思いますので、この質をどうするのかという議論を次回以降にしなければいけないのではないかと思います。

もうひとつの視点は、消防団のお話しがありましたが、やはりこれはコミュニティの再編、地域の再編ではないかと思っています。最近では人口減少という日本的な社会現象の中で、社会学者が盛んに研究をし始めていて、新しい提案として“公共圏”というものを理論的に確立させる議論を推し進めて、そこに沿ってやるべきだと。

分かりやすい例で言うと例えば首都圏、或いは人口の多いところには、コミュニティ（地域）にどういう人が住んでいるのかよりも、Aという喫茶店にそこを愛する人が集まったり、或いは居酒屋に集まって飲み友達ができる、そこである種の情報交換や地域のネットワークができるというお話しがあります。そして沼田での公共圏とは何かを考えながら拝聴しておりました。

前回、沼田に来てコーヒーショップを探しても見つかりませんでした。おそらく沼田の方たちには外でコーヒーを飲むという習慣がないからコーヒーショップがないということなのだと思いますが、逆に人間関係が濃密な地域であるともいえると思います。お金を出してコーヒーを飲みに行かなくても、隣近所でお茶を飲むという関係

が一方ではあり、最早そういう関係すらない地域というのものもあるのかもしれませんが。

特に岐阜・名古屋はモーニングサービスの本拠地でありますからコーヒーショップが沢山あって、そこには午前中、おじいさん、おばあさんが集まるコミュニティがあります。そういう意味で公共圏のソフト化ということについて、ここで一度考えておく必要があると思います。

それから、図書館が必要というのはまったくそのとおりだと思いますが、全国的には5年前から各地域の図書館が閉館に追い込まれているという現実があります。図書館は知の拠点なのであった方が良くと思いますし、私見としても無くさない方が良くと思います。ところが残していけば残していくほど、私は一般的な図書館である必要はないと思います。先ほど観光振興と文化振興等で博物館に準じた資料館をつくってはどうかというご意見がありましたけれども、もしもそういったものができるのであれば、その関連の図書や資料はそちらに行くので、唯一の沼田市立図書館ということであれば、この図書館は全国の図書館と比較してどういう特色があるのか、そのために足を運ぶような愛好家や、或いは研究者がいるということは観光とともに図書館が人を集める装置にもなると思いますので、やはり“特化”というものをこの機会に市民構想会議で議論をした方が良くと思います。

それからスポーツ施設、特にプールのお話でしたが、プールをスポーツ施設として考えるのか、或いは高齢社会における健康回復施設として考えるのかで、その扱いが大きく変わってくると思います。ご存知の方もおいでだと思いますが、ドイツにおけるバーデン・バーデンは、プールというよりは温泉健康施設として賑わっています。これを考えると集約するならしても医療の一步手前まで特化させることをこの機会に考えても良いと思います。沼田市の周辺は温泉の宝庫ですからプールというものにとらわれ過ぎないで、オリンピックを育成できるようなスポーツ施設として考えるのか、或いは寝たきりにならないような健康増進施設的な視野で考えるのか、その発想の転換をしなければならぬ議論が最初に出たスポーツとしてのプールの話ではなかったかと思います。

戦後の日本では大きく価値観が3回変わっていて、詳しくは申し上げませんが、1986年に量的な充足から質的な充足へと価値観の転換が社会的に起きています。それから、2001年には情報関連に関する社会社会的転換があり、2008年には日本で断捨離ブームが起きました、断捨離とは「物はいらぬ、心の豊かさが欲しい」ということでミニマリズムとってひとつあれば良いという質的転換のモードが変わってきた。こういうことも皆さんの議論を拝聴しながらそうした観点からの議論を試みる必要もあるのではないかと感じました。行政が必要とする安心安全のための装置の話は皆さんがお認めになっているように、その装置そのもののは私たちの生活に

必要なものであります。こういう風に全体を考えてみますとインフラの将来像ということが行政サイドでは必要であろうと思いますし、市民サイドでいえば居住区の線引きの話になる。水道の話もそうでしょうし、その他の消防の話もそうです。そういう意味で言えば公共圏のソフト化や集約化における量的なものから質的な転換をどうという視点で問題整理するのかという、それから図書館でもスポーツ施設でもどこに力点を置いて複合化するならする、或いは寧ろ単純な施設化をしてしまうこともあるだろうと思います。

観光については議論が少なかったように感じました。観光の重要性は皆さんも十分ご承知されていてご努力されていると思いますが、人を集めることも大事ですが、それでは沼田の観光とは何か、何を売りにするのか、観光の特化ということも議論しておかないといけないと思います。ずっとある観光施設だから残した方が良いという考え方もありますが、特化したら整理できるということ、その整理したものを残したものに何倍も力を入れられることになります。

また、私的には沼田に来てサイン（看板）計画が非常に不足していると感じていますので、サイン計画を一度しっかりとやってみたら大分状況が変わってくるのではないかと考えています。地元の方はどこに何があるのかご存じでしょうが、そもそも観光は外から来る人の視点で考えるものですから、やはりサイン計画は必要であると思います。

2) その他

<会 長>

それではその他について何かあればお願いします。

<事務局>

今回の会議は、10月19日（木）の午後2時から市役所北庁舎三階の第二会議室で開催させていただきますのでご予定をお願いします。

次回につきましては公共施設等総合管理計画についてご意見をいただきましたのでそれを集約したものをお示しし、市長への報告をするための協議をお願いしたいと考えております。また、まち・ひと・しごと総合戦略の効果検証につきましてもお願いしたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

なお、協議の進捗状況により第5回会議を開催する場合には11月14日（火）、11月21日（火）のどちらかで考えていますので皆さんのご予定をお聞かせいただきたいと思います。

<会 長>

皆さんのご都合をとということでございますが、只今、11月14日（火）というご意見がありましたがいかがでしょうか。

特にないようなので第五回を実施する場合には11月14日にさせていただきます
のでよろしくお願い致します。

<会 長>

他になければ会議を閉じさせていただく。

(5) 閉 会 (事務局)